

# 2017年度第1四半期決算 および 経営方針説明会

2017年7月26日  
富士通フロンテック株式会社

# 1. 2017年度第1四半期決算概要

- 連結経営成績
- セグメント別売上高・営業利益
- セグメント別増減要因（売上高）
- 地域別売上高
- 連結財政状態、キャッシュ・フロー

# 連結経営成績

[億円]

摘要	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
2017年度 1Q	234	8	8	5	21.26円
2016年度 1Q	215	1	△6	△5	△19.66円
前年同期比	+19	+7	+14	+10	

## 海外売上高 ( ) 内は売上高比率 [億円]

2017年度 1Q	58 (24.7%)
2016年度 1Q	46 (21.2%)

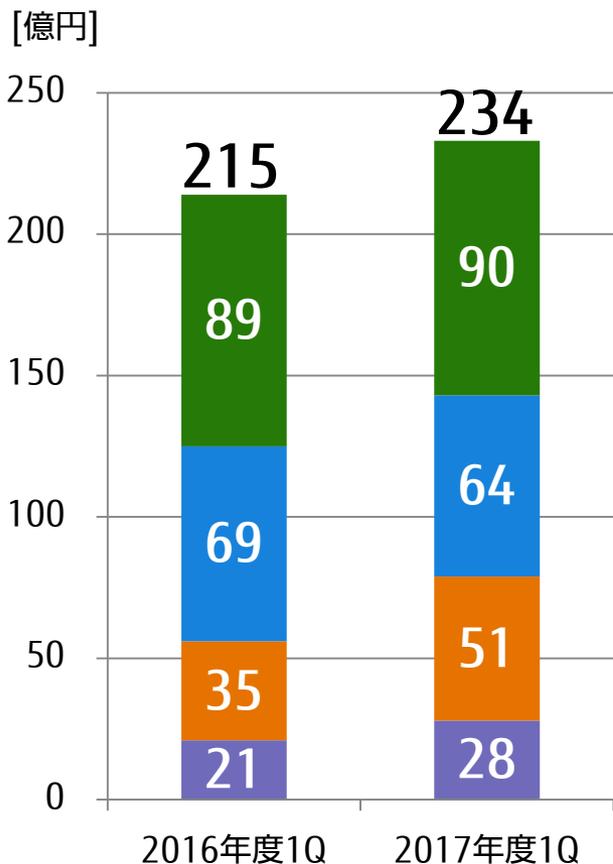
	期中平均為替レート (1USD=)
2017年度 1Q	111円
2016年度 1Q	108円

# セグメント別売上高・営業利益

[億円]

摘要	2016年度1Q		2017年度1Q		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
グローバルプロダクト ビジネス	89	△3	90	0	+1	+3
サービスインテグレーション ビジネス	69	7	64	7	△5	±0
パブリックソリューション ビジネス	35	2	51	4	+16	+2
フロントソリューション ビジネス	21	△2	28	0	+7	+2
その他ビジネス/ 全社費用(戦略投資含む)	0	△3	0	△3	±0	±0
計	215	1	234	8	+19	+7

# セグメント別増減要因（売上高）



- グローバルアウトソーシング
- サービスインテグレーション
- パブリッククラウド
- フロントソリューション

**グローバルアウトソーシング 90億円 (前年度比+1億円, +1%)**

- 北米流通市場向けメカコンポーネントの一巡
- 欧州・中国向けメカコンポーネントの好調な推移
- 国内営業店端末の大口更新需要一巡による減少

**サービスインテグレーション 64億円 (前年度比△5億円, △7%)**

- ATM用ソフトウェアパッケージ・システムインテグレーションの減少
- 昨年度にあった大口受託案件の開発完了に伴う減少

**パブリッククラウド 51億円 (前年度比+16億円, +46%)**

- トータリゼータ関連プロダクトおよび運用サービスの前倒しによる伸長
- フライトインフォメーションディスプレイシステムおよび中古車向けせりシステムの増加

**フロントソリューション 28億円 (前年度比+7億円, +33%)**

- モバイル端末の大口需要による増加
- 海外向け手のひら静脈認証の伸長
- 国内向けRFIDの伸長

# 地域別売上高

[億円]

摘要	2016年度1Q	2017年度1Q	増減額
国内	169	176	+7
海外 ( )内は売上高比率	46 (21.2%)	58 (24.7%)	+12
米州	28	22	△6
欧州	10	19	+9
アジア	8	17	+9
中国	4	10	+6
その他	0	0	±0
計	215	234	+19

# 連結財政状態、キャッシュ・フロー

## ■ 連結財政状態

[億円]

摘要	総資産	負債	純資産
2017年度1Q	692	248	444
2016年度末	746	306	440
増減額	△54	△58	+4

自己資本比率
63.8%
58.6%

## ■ 連結キャッシュ・フロー

[億円]

摘要	営業C/F A	投資C/F B	刈-C/F A+B	財務C/F C	C/F A+B+C
2017年度1Q	35	△14	21	△6	15
2016年度1Q	52	△5	47	△6	41
増減額	△17	△9	△26	±0	△26

現金及び 現金同等物の 期末残高
203
149
+54

## 2. 経営方針

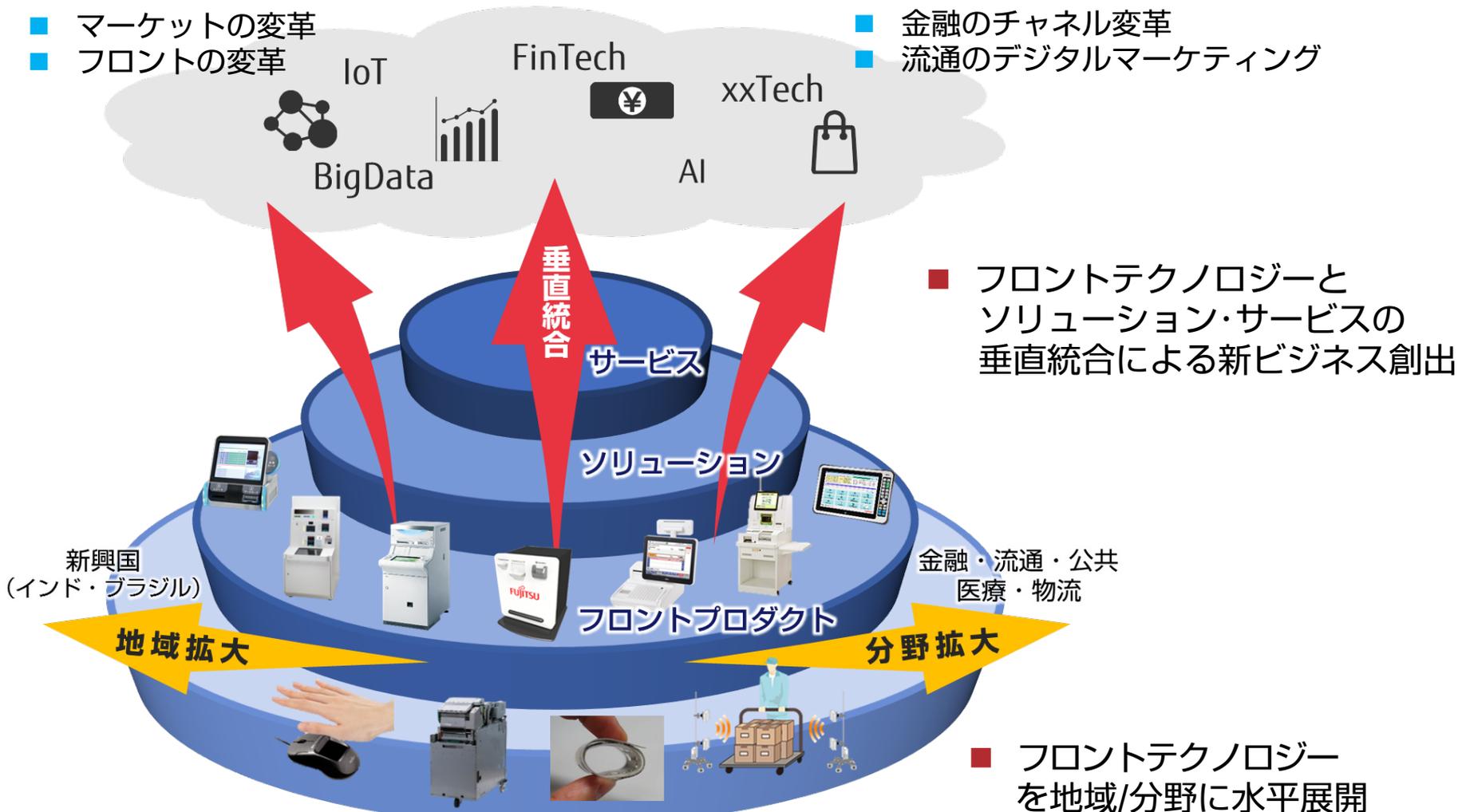
- 目指す姿
- 進化するデジタル革新と当社の取り組み
- 中期戦略テーマと業績目標
- 2016年度の振り返り
- ビジネス環境と当社の対応
- セグメント毎の中期方針と2017年度施策
- 事業基盤強化

- B to B to Front  
変化するフロントを担う企業としての変革と成長
- 「モノからコト」の流れの中で、  
「コト」に対応した「モノ」の水平展開、  
得意分野はソリューション・サービスまで垂直統合
- フロントテクノロジーの強みをグローバルへ

# 進化するデジタル革新と当社の取り組み

- マーケットの変革
- フロントの変革

- 金融のチャネル変革
- 流通のデジタルマーケティング



- フロントテクノロジーとソリューション・サービスの垂直統合による新ビジネス創出

- フロントテクノロジーを地域/分野に水平展開

**強味のあるフロントテクノロジー**  
紙幣鑑別、媒体搬送、手のひら静脈認証、  
RFID/ビーコンなどセンシングデバイス etc.

# 中期戦略テーマと業績目標

## ➤ 中期戦略テーマ (B to B to Front)

海外ビジネスの領域拡大

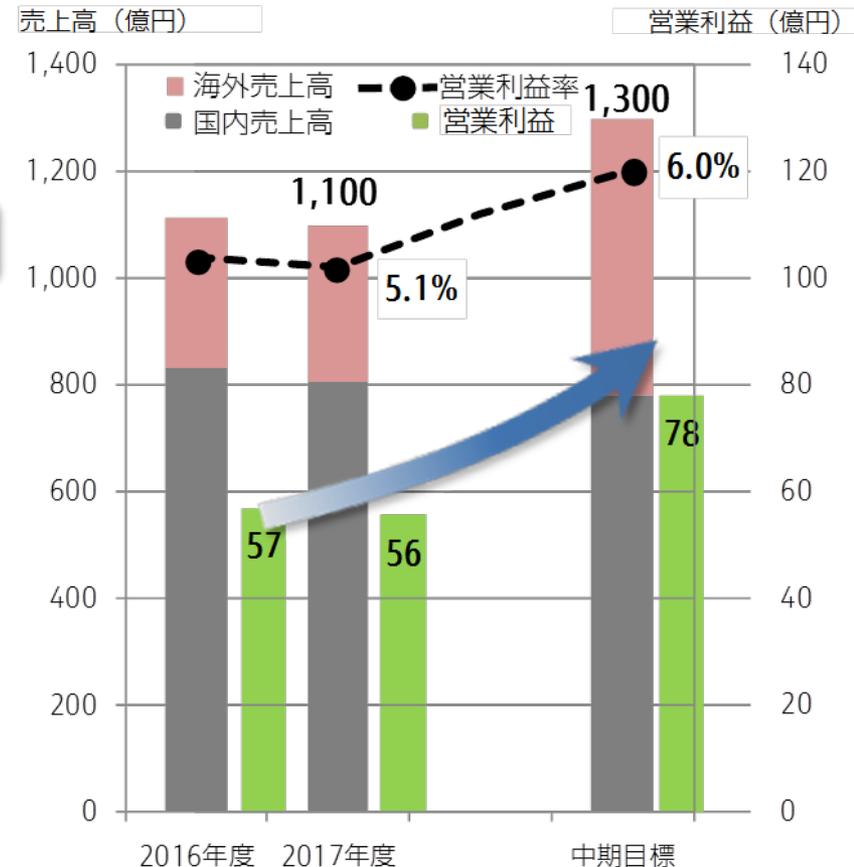
国内ビジネスの変革推進

フロントテクノロジーの強化・成長

事業効率化の更なる推進～プロセス革新～

## ➤ 業績目標

	2016年度実績	中期事業目標
連結売上高	1,112億円	1,300億円
営業利益	57億円	78億円
営業利益率	5.2%	6.0%
海外売上高比率	25.2%	40%



## 海外ビジネスの領域拡大

- 北米での大規模流通店舗向け入出金機市場参入
- 流通・公共交通機関等多用途向け小型BRU投入
- インドネシア中古車せりシステムの稼働

## 国内ビジネスの変革推進

- 軽量化営業店舗対応クイックカウンター/ロビー入金機投入
- 海外ICカード対応ATM稼働開始
- 現金管理運用サービスの業種拡大（ガソリンスタンド、ブライダル向け等）
- 競技場向けクラウドサービスへの参入

## フロントテクノロジーの強化・成長

- 垂直統合型ビジネスの事業化着手（センサープラットフォーム、統合認証ソリューション）
- RFID、手のひら静脈認証ラインナップの強化

## 事業効率化の更なる推進～プロセス革新～

- ものづくりのデジタル革新の推進  
（3Dプリンタ、3Dスキャナ、VPS、タブレットによる工程管理）

- IoT、Fintech、AIなどICTテクノロジーによるデジタル革新
- 省力化、効率化など働き方改革や人手不足への対応
- ICT化に伴うセキュリティ、安全・安心への要求の高まり



- 当社の強みであるテクノロジーとプロダクトをフロント領域でデジタル革新をもたらすコアと位置付け、「コト」からの発想で強化・成長させる。
- プロダクトとソリューション・サービスの両面でお客様のフロントの変革を支える。
- 業種、地域、プロダクトからソリューション・サービスへ、ビジネスの枠を拡げる。

## グローバルプロダクトビジネス

ATM、営業店端末、メカコンポーネント、  
海外向け装置・ソリューション

## サービスインテグレーションビジネス

ATM / 金融 / 産業ソリューション  
垂直統合型ソリューション（新組織）  
LCMサービス、金融サービス、流通サービス

## パブリックソリューションビジネス

公営競技関連機器、表示システム、  
オークションシステム、金型・切削加工

## フロントソリューションビジネス

手のひら静脈認証、RFID、モバイルシステム、  
店舗システム

- お客様フロントの変革
- 省力化・自動化
- 安全・安心

- ・ コト起点
- ・ ソリューション・サービス起点

- ◆ 国内ATM、営業店システムで培った技術を海外向け装置・ソリューションに展開
- ◆ 紙幣ハンドリングの技術とノウハウを金融から流通、公共分野へ拡大
- ◆ 軽量化営業店舗、次世代コンタクトポイントなど国内金融フロントの変革への確実な対応

## 【海外ビジネス】

### ➤ お客様フロントの変革

- 流通店舗の現金管理ソリューション構築
- 海外向けATM装置ビジネスの地域拡大
- 様々な業種/業態、地域に向けたラインナップ拡大
  - ⇒ 新興国リサイクルATM
  - ⇒ 中国農村部向け小型ATM
  - ⇒ 北米SCO、中国地下鉄券売機
  - ⇒ 流通バックオフィス向け現金管理機

### ➤ 安全・安心

- 次世代紙幣鑑別技術開発による鑑別の精度/速度の向上、取扱い紙幣種の拡大



次世代大型BRU



多用途向け  
小型BRU

CBM : Cash Box Module  
MSS : Micro Self Service  
BRU : Bill Recycle Unit  
SCO : Self Check Out

## 【国内ビジネス】

### ➤ お客様フロントの変革

- 銀行の店舗業務を事務処理型からセールス型へ
  - ⇒ 帳票レス (来店客の利便性向上、店舗業務の省力化)
  - ⇒ クイックカウンタ (ATMを活用した営業店業務の効率化)
  - ⇒ リサイクルキャッシャー (現金取り扱い業務の効率化)
- 次世代ATM：新たなコンタクトポイント機能の提供
  - ⇒ スマートホンを利用したカードレス決済
  - ⇒ Webプロモーション
  - ⇒ 視線検知やAIを利用した安心の提供



リサイクルキャッシャー



スマートホンとATMの連携

### ➤ 省力化・自動化

- ATM応用製品の商品化による業種拡大
  - ⇒ ホテル等の精算機から病院、小売、飲食店など現金決済を伴う市場への参入



ホテル精算機

- ◆ SoR領域からSoE領域まで、フロントテクノロジーの様々なソリューションやシステムライフサイクル全体を支えるサービスをトータルに提供

## ➤ お客様フロントの変革

- 銀行のセールス型店舗化、次世代ATMを支えるソリューションの展開
- センサープラットフォーム ～IoT、ビッグデータの利活用～  
⇒ RFID/ビーコン等のIoTセンサーデータをクラウドに集積  
お客様の業務システムとの連携を可能にするプラットフォームを提供
- 海外現地Sierとの協業によるRFID、手のひら静脈認証関連ソリューションのグローバル展開

## ➤ 省力化・自動化

- 警送ベンダとの協業による現金運用管理サービスの対象業種の拡大
- ATMサービスビジネス拡充（海外ICカード・PCIDSS対応、店舗向け新型ATM投入）
- 流通店舗向け保守サービス拡充（マルチベンダ対応、海外ベンダの国内修理）

## ➤ 安全・安心

- 統合認証ソリューション ～認証サービスプラットフォーム～  
⇒ 生体、FIDO、多要素認証などをクラウドに統合



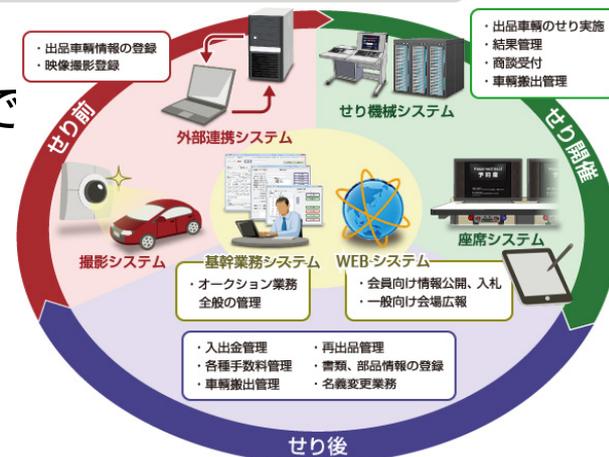
◆ 強みのあるコア技術を活かしたビジネス領域拡大とソリューションビジネス創出

## ➤ お客様フロントの変革

- オークションシステム～せり機から業務システムまで  
⇒ タブレット端末を活用した新ソリューションによる運用改善
- 公営競技における様々なお客様サービスの創出  
(キャッシュレス投票、ポイント/ギフトサービス)
- 競技場包括運用ノウハウによる効率化/省力化
- 大型映像ソリューション (Bリーグ、ラグビーW杯など)
- デジタルサイネージシステム

## ➤ 省力化・自動化

- トータリゼータ8次端末、toto端末の投入  
⇒ さらに業種ノウハウを他市場に展開
- 環境配慮型屋外表示装置 (新型エコボード)



天吊大型映像装置 (Bリーグ)



toto端末 (試作機)

- ◆ IoT、高セキュリティ化社会に向けたセンサー機能・用途拡大
- ◆ マルチ決済ソリューション創出とサービスビジネス展開

## ➤ お客様フロントの変革

- ICクレジット対応義務化に向けた店舗の決済ソリューションの提供  
(PCIDSS対応型マルチ決済端末、セキュリティ強化ソリューション、運用管理サービス)
- カードレス決済による利便性向上

## ➤ 省力化・自動化 (RFIDなどIoTセンサー)

- RFIDタグ性能強化による活用シーン拡大  
(小型化⇒宝飾品、耐薬品⇒清掃具、水分環境⇒コンビニ等)
- センサーラインナップの強化 (RFID、ビーコン)

## ➤ 安全・安心 (手のひら静脈認証)

- 静脈センサーの機能強化と用途拡大  
(屋外環境、タブレット組込み、病院・外食など)
- 組込み機器用認証ボード  
(コピー機、ドア管理機、自動車などへの拡大)
- 生体情報のセキュリティ強化によるクラウド認証推進



手のひら静脈認証によるカードレス決済



カウンタセンサーによるRFID一括読み取り

## ➤ 品質

- ゼロディフェクト：品質のあくなき追求
  - ・品質プロセス・マネジメント強化（上流品質、検証ツール、リスクマネジメント）
  - ・ソリューション・サービス品質の更なる向上
  - ・グローバル品質保証体制

## ➤ コスト競争力・効率化

- 開発～S C M～ものづくりの更なるデジタル化推進
- グローバルS C M効率化・コストダウンの徹底

## ➤ 人材育成・働き方改革

- RPA（Robotic Process Automation）によるホワイトカラーの定型業務自動化
- ICTを活用した働き方改革（仮想デスクトップ、残業申請システム、テレワーク等）

## ➤ 環境への取組み

- 製品のエネルギー効率化と環境貢献型ソリューション・サービスによりお客様の環境負荷低減に貢献
- 事業活動、バリューチェーン全体における温室効果ガスの削減

# 3. 2017年度通期計画

- 2017年度連結業績予想
- セグメント別売上高・営業利益予想
- 地域別売上高予想

# 2017年度連結業績予想

[億円]

摘要		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2017年度 計画	上期	486	18	16	11
	通期	1,100	56	48	34
前回公表比	上期	△14	+7	+8	+7
	通期	±0	±0	±0	±0
前年度比	上期	△28	△11	△5	△4
	通期	△12	△1	△3	△3

1株当たり 純利益
45.86円
141.76円

## 上期連結業績予想修正について

一部商談の延伸等により売上高は14億円の減収となるものの、第1四半期での損益改善および第2四半期でのコストダウンや費用効率化などにより利益を上方修正します。

なお、通期については、為替やビジネス環境の不透明感により前回公表値を変更いたしません。

# セグメント別売上高・営業利益予想

[億円]

摘要	2016年度		2017年度		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
グローバルプロダクト ビジネス	505	29	466	14	△39	△15
サービスインテグレーション ビジネス	298	23	296	32	△2	+9
パブリックソリューション ビジネス	192	18	213	16	+21	△2
フロントソリューション ビジネス	116	3	124	6	+8	+3
その他ビジネス/ 全社費用(戦略投資含む)	1	△16	1	△12	±0	+4
計	1,112	57	1,100	56	△12	△1

# 地域別売上高予想

[億円]

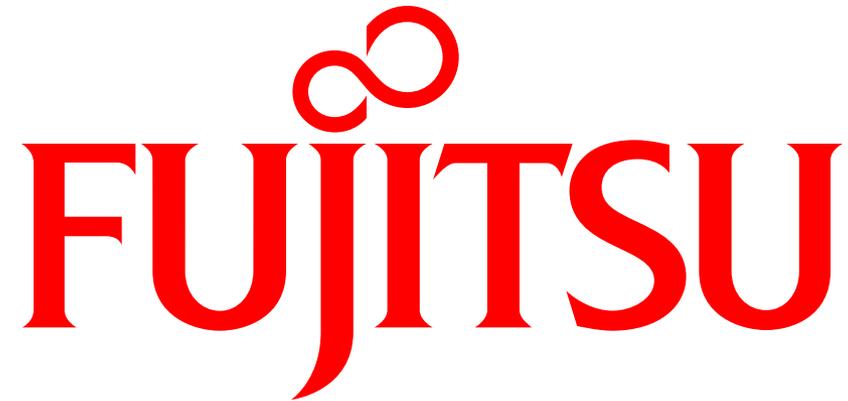
摘要	2016年度	2017年度	増減額
国内	832	806	△26
海外	280 (25.2%)	294 (26.7%)	+14
米州	159	118	△41
欧州	76	95	+19
アジア	44	81	+37
中国	30	53	+23
その他	1	0	△1
合計	1,112	1,100	△12
期中平均為替 レート (1USD=)	108円	上期：108円 下期：105円	

### <見通しに関する注意事項>

- 本資料には、富士通フロンテックが現時点で把握可能な情報から判断した想定などにもとづく将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。
- また、多様なリスクや不確実性（経済動向、関連業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度などがあります）を含んでおります。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知置きください。

### <商標について>

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。



shaping tomorrow with you